

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 災害ケースマネジメントノウハウ移転事業
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
- 実行団体 : 特定非営利活動法人ワンファミリー仙台、特定非営利活動法人 YNF

### ① 実績値

| アウトプット                                       | 指標                    | 目標値      | 達成時期         | 現在の指標の達成状況  | 進捗状況<br>* |
|--|-----------------------|----------|--------------|---|-----------|
| 民間支援団体と当コンソーシアム構成団体、協力団体の間で生活再建支援に関する協定が結ばれる | 協定の数                  | 4        | 事業1年目<br>終了時 | 結べていない  | 3         |
| 対象地域の多様な主体が定期的に集まるようになる                      | 定期的な会議の回数(年)          | 2        | 事業<br>終了時    | 徳島での協力団体である(一社)さいわいのメンバーが徳島県主催の徳島県災害ケースマネジメント推進協議会に参加するなどしている。  | 1         |
| 多様な主体が個別の具体的な支援方法のノウハウを身に付ける                 | 研修参加者の理解度(事前・事後アンケート) | 3 (5段階中) | 事業<br>終了時    | 現在のアンケートでは、自由コメント等から参加者の理解度が深まった旨が読み取れる。ノウハウを身に付けた状態を具体的に言語化し、理解度についてより明確化する必要がある、またそれに合わせてアンケート内容の見直しを行う必要がある。 | 2         |

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

|   |
|---|
| 1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み  |
| 2.概ね達成の見込み  |
| 2.アウトカムの状況  |
| A：変更項目<br><input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値 |
| 5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点  |
| 開催地の関係団体の意向に従い、リアルでの開催の際はコロナウィルスの感染拡大状況に応じて、PCR 検査を受け、陰性証明を事務局で確認するなどの工夫をした。  |

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

<https://kahoku.news/articles/20220401khn000036.html>（河北新報、2022年4月4日）

2.広報制作物等

3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

| 内部／外部 | 評価担当分野         | 氏名    | 団体・役職              |
|-------|----------------|-------|--------------------|
| 外部    | プロセス評価・アウトカム評価 | 松村幸裕子 | 共奏学舎・事業評価コーディネーター  |
| 内部    | 評価全体の管理        | 江崎太郎  | 特定非営利活動法人 YNF 代表理事 |
| 内部    | 集計・分析          | 古賀幸   | 特定非営利活動法人 YNF 理事   |

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

| アウトカムで捉える変化の主体 | 指標   | 目標値        | 達成時期  | これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況   |
|----------------|--|------------|-------|---|
| 地元自治体・民間団体     | 災害ケースマネジメントに対する地元自治体・民間団体の自主的な活動がスタートしているか | スタートしていること | 事業終了時 | 2022 年度より、徳島県において、災害ケースマネジメントに関する協議会がスタートした。徳島県は NPO が少なくまだ、民間団体の参加は少ない状態ではあるが本事業を機に自治体と民間団体が協働した事例が一つ生まれている。 |
| 研修参加者          | 災害ケースマネジメントのノウハウを有しているか                    | 5 段階中3の状態  | 事業終了時 | 研修を開催し、それぞれ災害ケースマネジメントへの理解は深まっているとアンケート結果からわかるが、どうなったら習熟した(ノウハウを有した)状態になっているのかが曖昧なため、今後議論を深めていく。              |



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

| 評価小項目 | 評価小項目の評価結果 | 評価結果の考察 |
|-------|------------|---------|
|       |            |         |



| 事業のアウトカムの進捗評価   | 評価結果の考察   |
|---|---|
| <p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p> | <p>本事業は、当初予定していた地域や対象者から広がりを見せ、災害ケースマネジメントキャラバンは愛媛や香川でも実施することになった。よって短期アウトカム①はより広いエリアで活動がスタートする可能性があり、引き続き働きかけをおこなう。</p> <p>また、短期アウトカム②については、「災害ケースマネジメントのノウハウを有している」とはどういった状態であるのか、具体的に言語化する必要があることが分かり、それらが言語化されることにより、アウトカムの目標値の達成は可能ではないかと考えられる。言語化ののち、アンケート設計も見直し、指標のデータを収集できるように改善する。</p> |

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

| 評価項目               | 評価小項目                 | 評価結果                                | 考察   |
|--------------------|-----------------------|-------------------------------------|--|
| 実施状況の適切性           | 参加者の理解が進むプログラムになっているか | なっている                               | 参加者アンケートより、災害ケースマネジメントを「全く知らない」「言葉は知っている」という状態の人の参加が8割を占め、自由記述からも「理解が進んだ」「知ることができた」等の肯定的な意見が9割以上あるため、参加者の理解が進むプログラムになっているといえる。 |
| 実施をとおした活動の改善、知見の共有 | 短期アウトカムについての再考        | 短期アウトカムの「ノウハウを有した状態」についての言語化・明確化が必要 | ノウハウを有した状態をより明確した上で、言語化する必要があると思われ、9月に関係者でミーティングを行った。再度の議論の必要性があるため、1月以降に再度開催を計画。  |
| 組織基盤強化・環境整備        | 開催地での行政・社協関係者の参加      | 参加している                              | 各開催地で行政・社協関係者の参加も多く、事業の環境整備が進んでいると判断できる。   |

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・徳島県においては徳島県災害ケースマネジメント推進協議会が発足した。
- ・内閣府防災より災害ケースマネジメント事例集が発表された。
- ・政府骨太の方針(経済財政運営と改革の基本方針 2022)に災害ケースマネジメントが盛り込まれた。

### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

当初予定していた地域や対象者から広がりを見せ、災害ケースマネジメントキャラバンを愛媛や香川でも実施することになったこと



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



| 事業の改善状況の評価結果  | 評価結果の考察   |
|---|---|
| <p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p> | <p>短期アウトカム指標は、上述の通り、「災害ケースマネジメントのノウハウを有する状態」についての言語化を2023年1月におこなうため、その言語化により、指標を再設定し、事後評価を行える状態にしていくため。</p> |

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

事業は南海トラフの想定地域である四国各県で広がりを見せており、引き続き進めていくと同時に四国各県の団体間の顔の見える関係づくりも視野に入れたい。受講者からは一定の評価を得ているとアンケートから判断できるが、より分かりやすく伝えていくための工夫も同時に行っていきたい。

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）  
災害ケースマネジメントキャラバン in 福岡 2022年6月30日



災害ケースマネジメントキャラバン in 久留米 2021年12月



災害ケースマネジメントキャラバン in 久留米 2021年12月





災害ケースマネジメント研修 徳島打合せ 2022年4月

